

ながいき農業だより

発行 長生農業事務所 茂原市茂原1102-1・長生農業改良普及事業協議会
 編集 長生農業事務所改良普及課 TEL 0475(22)1771 FAX 0475(25)2061
 URL <https://www.pref.chiba.lg.jp/ap-chousei/>

元気な長生農業人 その四十七

スマート農業・省力化技術で 実現する、体に負担の無い農業へ!!

長南町 農事組合法人 西湖営農組合

長生郡長南町の東部に位置する西湖地区は、高低差のある中山間谷津田地域の中であり、里山の美しい風景が広がります。今回、西湖地区で水稻を中心に栽培を行っている「農事組合法人 西湖営農組合」を紹介します。

《設立の経緯》

西湖地区は、昭和五十三年から五十四年にかけて、水田のほ場整備が行われました。しかし、高齢化による農業従事者の減少や担い手不足により、個人での営農は徐々に困難になってくることが予想されました。

そこで、平成二十六年から地元生産者を中心となり、協議を積み重ねた結果、平成二十八年三月に組合員十三名で構成された農業法人西湖営農組合が設立されました。

《現在の取り組み》

水稻約二〇ha、ブロッコリー、ソラマメ三〇aの栽培に取り組んでいます。本年から、エダマメの栽培にも挑戦しています。主食用



可変施肥田植機の導入

米は、コシヒカリと粒すけ、飼料用米としてアキヒカリを栽培しています。地域内外での米の食味評価が高く、同組合が九月に開催している収穫感謝祭では地域の皆さんにおにぎりとして振る舞っています。特に粒すけの評価が高く「冷めてもおいしい」と好評です。

《今後の展望》

スマート農業機械を取り入れ、作業の効率化と省力化を図っています。可変施肥田植機という、ほ場毎に適した施肥量を自動で調整

できる田植機を活用し、衛星画像データを使用したほ場管理システムも導入しています。さらに、運営コストの削減と環境への配慮として、緑肥の活用による化学肥料の低減にも取り組んでいます。今後の課題は、後継者の確保です。スマート農業の拡充、生産品目の多角化などを進め、担い手の確保に努めています。佐藤組合長は「体に負担の無い作業を心がけ、若い人も楽しんで作業ができる環境づくりを目指しています。省力化をどんどん進め、若い人が興味を持ち、西湖地域の農業を続けていけるよう準備をしています。」と力強く話してくれました。

西湖地区の農地と環境の保全に寄与し、西湖地区に暮らす人達の生活がより一層充実したものになるよう西湖営農組合の新たな挑戦に期待しています。

(改良普及課)



ドローンを活用した
薬剤散布

水稲の収穫後には 秋耕をしましょう！

秋耕とは稲刈りが終わってから秋の間に耕うんを行い、稲わらや稲株をすき込むことです。

秋耕をしっかりと行うことで以下のような効果が得られ、翌年の収量や品質の向上が期待できます。

一 稲わらの腐熟促進

水田ほ場の稲わらの腐熟を促進することができ、腐熟を促進することで、翌年の代かきを行いやすくすること、水稲の生育に必要なケイ酸等を土壌に還元させること及び水田の保水力の向上や肥沃度の向上を図ることができます。また、水稲移植後のガス害の原因となる硫化水素の発生を抑制できます。

二 メタンガスの排出量削減

メタンガスは、二酸化炭素に次いで地球温暖化に及ぼす影響が大きい温室効果ガスであり、温室効果は二酸化炭素の約二〇倍あるといわれています。また、国内で排出されるメタンガスの約四割は水田から発生していると報告されています。

メタンガスは、水田が湛水状態

の環境下で稲わら等の有機物が分解されることで発生します。そのため、秋耕により腐熟を促進することでメタンガスの排出が削減できます。

三 ジャンボタニシの物理的防除

ジャンボタニシは越冬するため秋から冬にかけて、水田の土壌中で休眠しています。最も土壌が締まり土壌内でジャンボタニシの身動きがとりにくい稲刈り後の秋耕が物理的防除に効果的です。

秋耕の際に、トラクターの作業速度は時速一・五キロメートル程度と遅くし、ロータリー回転はPTO回転約八〇〇rpmと速くすること、且が破碎されやすくなり殺菌効果が最も高まります。

四 難防除性雑草の耕種的防除

難防除性雑草であるオモダカとクログワイは塊茎による繁殖を行います。秋耕により雑草の地上部が埋没するとともに塊茎が切断されることで、翌年の繁殖を抑制することができます。

また、再生する雑草には除草剤（非選択性除草剤）と組み合わせることで効果が高まります。稲刈り後、雑草が再生したら気温の高いうちに非選択性除草剤を散布し、一カ月程度経過した後には耕うんしましょう。

（改良普及課）

秋冬ネギの 黒腐菌核病対策に ついて

黒腐菌核病は、ネギの土壌病害で、発生すると大きな減収を引き起こします。本病は、低温期に葉先が枯れ、その後、軟白部が腐敗し、黒色の菌核が多数発生します。菌核は、数年にわたって土壌中で生存するため、防除が難しく、総合的な対策が必要です。

（一）発生までの流れ

土壌中や罹病残さ中の病原菌が感染源となり、日平均気温が十五℃程度になる十月～十一月に茎盤付近から感染します。感染後、十二月～二月に発病します。

（二）防除のポイント

フローチャート（図）に従って対策を講じてください。

対策① 土壌消毒

菌密度を下げるため、デイ・トラペックス油剤、バスアミド微粒剤等で土壌消毒を行ってください。土壌くん蒸時にはポリフィルム等で被覆を行ってください。

対策② 定植前の苗かん注

稚苗（セル苗・ペーパーポット苗）の場合、防除効果が高く、薬効が持続する、パレード20フロ

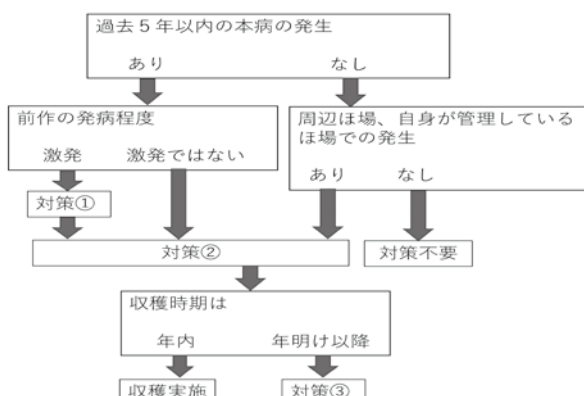
アブルをかん注することで、年内の発病を抑制します。
※大苗は農薬登録上、使用できません。

対策③ 秋期の殺菌剤処理

感染直前の九月十月にパレード20フロアブルの散布またはアフトフロアブルを株元かん注処理します。処理適期は日最高気温と日最低気温の平均値が継続して二十℃以下に下がり始める時期です。

（本文中の農薬は令和六年七月一日現在の登録によるものです。農薬の使用にあたってはラベルを確認し、適正に使用してください。）

（改良普及課）



黒腐菌核病対策のフローチャート（稚苗）

収入保険で さまざまな農業経営 リスクへの備え

自然災害や市場価格の低下など、さまざまなリスクによる収入の減少を補償する「収入保険」に加入しましょう。

加入できる方は、青色申告を行っている農業者の方です。

加入申し込みは、個人の方が十二月末まで、法人の方が事業年度開始の前月末までです。

令和六年加入から一〜三のおとり制度が拡充され、ご利用しやすくなりました。

- 一 青色申告一年分のみでの加入
- 二 保険方式のみで九割まで補償する新たなタイプの新設
- 三 基準収入算定の際、甚大な気象災害による影響を緩和する特例の新設

千葉県では、令和四年度から六年度までに収入保険に新規加入する方を対象に、保険料補助制度を実施しています。

詳しくは、千葉県農業共済組合にお問い合わせください。



イノシシ（左）やジャンボタニシ（右）の被害による収入減少も補償されます。

○問い合わせ先
千葉県農業共済組合

わかしお支所

TEL: 〇四七五(三六)二七〇

(企画振興課)

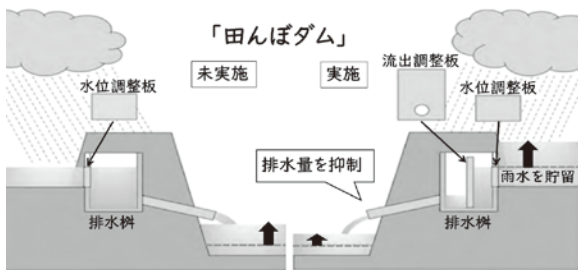
地域で取り組む「田んぼダム」 〜田んぼの水をゆっくり流すことで、 減らせる水害があります〜

●「田んぼダム」の概要

水田が持つ貯水機能を利用し、大雨が降った際に一時的に水を貯め、時間をかけて排水することで、排水路や河川の水位上昇を抑え、洪水で溢れる水の量や範囲を抑制し被害を軽減することができるとともに、営農しながら取り組むことができます。

●「田んぼダム」の仕組み

水田の落水口に流出量を抑制するための堰板や、小さな穴の開いた調整板などの器具を取り付けることで、水田に降った雨水を時間をかけてゆっくりと排水することができます。



「田んぼダム」を実施している水田の排水イメージ

●取り組みのポイント

- ① 合意形成と田んぼの選定
作物の生産に影響を与えない範囲で、農業者の協力を得て取り組めます。
- ② 畦畔や排水柵の点検と補修
十分な高さのある堅固な畦畔が必要で、畦畔がやせている場合、再構築など補修をします。排水柵のつまりや破損の点検・補修もを行います。
- ③ 排水調整板等の設置
営農に負担の少ない、水位調整等に手間のかからない器具を選定し、設置します。

●取り組みの実施・継続のために

「田んぼダム」の機能をしっかりと発揮させるには、畦塗りや草刈り作業など、日常の維持管理も欠かせません。「田んぼダム」に取り組んでいることを周知するなどし、地域のみみなで取り組んでいきます。

農地の維持管理には、多面的機能支払交付金や中山間地域等直接支払制度などを活用できます。また、地域で取り組む「田んぼダム」の導入のために、県単事業や国庫事業なども活用することができます。

興味のある方は、最寄りの自治体や長生農業事務所指導管理課までお問い合わせください。

(指導管理課)



千葉大学園芸学部
松岡延浩副学長による講演会の様子

千葉県農業士協会 長生支部の活動紹介 及び新規認証者紹介

【活動紹介】

千葉県農業士協会長生支部では、農業青年のリーダーとして、研修や交流会などを通じて個々の経営や技術向上を図るとともに、地域農業の発展などを目的に様々な活動を行っています。

令和五年度は、千葉県指導農業士会と共催で実施している農業情報交換研究会（二月九日講演と長生管内の二つの事例紹介）が、一宮シーサイドオーツカで開催されました。

研究会の後は新型コロナウイルス感染症対策で暫く中止となっていた指導農業士と農業士の交流会も併せて開催することができました。

また、今回は来賓として一宮町長にご挨拶をいただくともに、指導農業士と農業士だけでなく、様々な関係機関の皆様にも出席していただきました。

講演では約一二〇名、交流会では約八〇名の参加がありました。

【新規認証者紹介】

令和六年一月の認証式典にて、長生地区から菊地大輔氏が新たに農業士として認証されました。

菊地氏は一宮町を中心に水稲を栽培しており、近年栽培面積を拡大し、乾燥調製施設の新設や飼料用米多収品種の導入、環境に配慮した水稲栽培の取組などを行っています。

また、一宮町稲作研究会のメンバーでもあり、今後の地域の水田営農を担っていく人材として一層の活躍が期待されます。



(改良普及課)

長生農業経営体育成セミナーを開講しました

5月21日に長生農業経営体育成セミナーの開講式を行いました。今年度は基本生（1年生）13名、専門生（2年生）8名、総合生（3年生）7名の合計28名が受講しています。基本生は、基礎的な技術の習得と仲間づくりを行います。専門生は、自分の経営上の課題を見つけ、解決に導く「プロジェクト活動」に取り組みます。総合生は、自分の経営の把握・分析を行い、将来の営農計画を作成して、修了となります。

セミナーは新規就農者（原則45歳未満の青年農業者）を対象に実施しています。受講希望の方は、改良普及課までお問合せください。

(改良普及課)



開講式参加者で記念撮影

物流が変化している2024年 今後の農産物販売について語ろう！ 「長生農業フォーラム2024」の開催

「農産物販売の新たなホライズン～未知の市場を切り開く勇気～」をテーマに、物流の変化が起きている2024年の中で様々な販売を実施している生産者の講演や農産物の流通・マーケティングの専門家を交えたパネルディスカッションが行われます。

併せて長生郡市農林業功労者表彰式、地域農産物の展示即売会、特産品抽選会も実施されます。どなたでも参加できます。ぜひ足をお運びください。

日時 11月19日（火）12時～16時
即売会12時～、開会式13時～
場所 長生村文化会館（駐車場有り）
参加費 無料
参加申込 お住いの市町村役場農業関連各課
申込締切 10月23日（水）
問合せ先 長生農業事務所改良普及課
(0475-22-1771)
(改良普及課)